

**医療介護連携が進む現場医師の 8 割強が
「ケアマネジャーとの連携は集患に役立つ」と回答
～ 認知症における意識調査 ～**

2020 年 4 月 1 日
株式会社マクロミル
(コード番号 : 3978 東証一部)

株式会社マクロミル（本社：東京都港区、代表執行役社長 グローバル CEO：スコット・アーンスト）の出資先であり、医療分野におけるマーケティングリサーチを専門として日本有数の医療関連モニター数を保有する株式会社マクロミルケアネット（本社：東京都港区、代表取締役社長：徳田茂二）は、健康寿命の延伸に向け様々なヘルスケアサービスを運営する株式会社インターネットインフィニティ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：別宮圭一）と共同で、医師とケアマネジャーを対象にした「認知症における意識調査」を実施しました。調査手法はインターネットリサーチ。調査期間は 2020 年 2 月 27 日（木）～2020 年 3 月 2 日（月）。有効回答数は 728 名。

■ 調査結果のサマリー

1. 認知症の医療現場で「医療と介護が連携できている」、医師 4 割、ケアマネジャー 3 割
2. 「認知症予防は早期発見が重要だ」、医師 8 割、ケアマネジャー 9 割
3. ケアマネジャーと連携できている医師の 8 割強が、「ケアマネジャーとの連携は集患に役立つ」と回答。連携できていない医師の 1.4 倍
4. 認知症患者の“転倒予防”に大切なことは？医師・ケアマネジャーともに認識に相違はなく、「転倒の原因となりうる薬剤の見直し」、「環境の調整」、「動きづらさの改善」が上位
5. “抗認知症薬の積極的な使用”について、医師の 8 割、ケアマネジャーの 6 割が肯定的

■ 調査背景

日本では高齢化が進行しており、今後国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。これを受けて推進されている地域包括ケアシステム^(※)構築の一環として、医療介護連携を進める動きが広がっています。今回は、医療と介護の連携がうまくいかないと早期発見・治療が難しい疾患の一例として「認知症」を取り上げ、医療側と介護側の意識の違いを調査しました。

(※) "地域包括ケアシステム". 1. 地域包括ケアシステムの実現へ向けて. 厚生労働省.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/, (参照 2020-3-25)

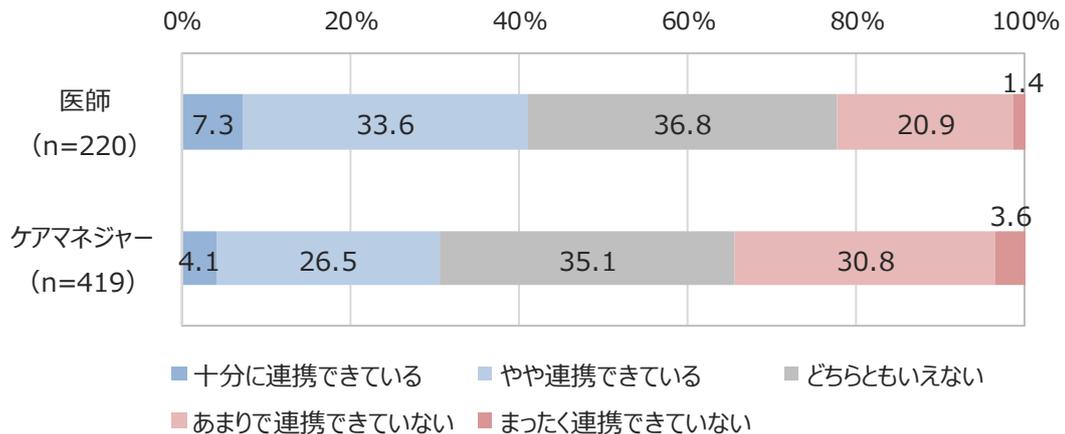


■ 調査結果

1. 認知症の医療現場で「医療と介護が連携できている」、医師 4 割、ケアマネジャー 3 割

認知症の医療現場において“医療と介護が連携できている”と回答した割合は、医師が 40.9%（「十分に連携できている」7.3%、「やや連携できている」33.6%）、ケアマネジャーで 30.6%（「十分に連携できている」4.1%、「やや連携できている」26.5%）でした。医師・ケアマネジャーともに連携できていると回答した割合は半数に届いておらず、現時点では十分とは言えないようです。

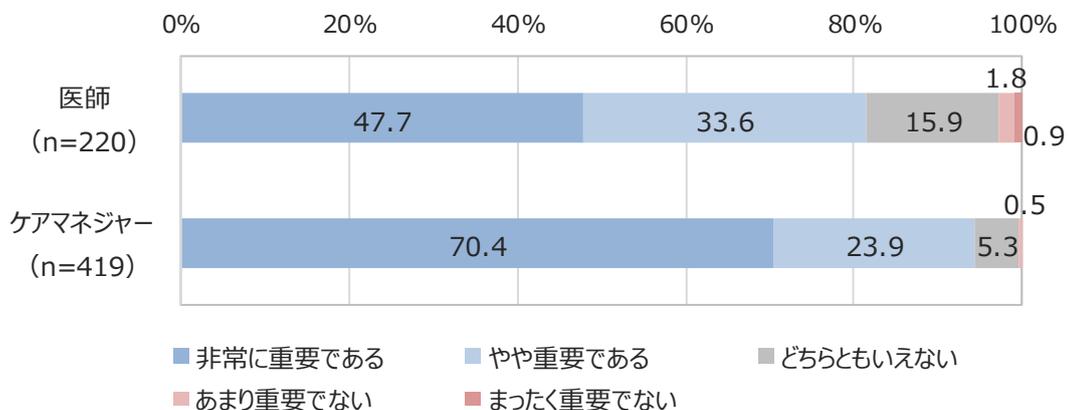
【図1】 認知症の医療現場における、医師と介護の連携実態



2. 「認知症予防は早期発見が重要だ」、医師 8 割、ケアマネジャー 9 割

認知症予防における“早期発見の重要度”については、医師の 81.3%（「非常に重要である」47.7%、「やや重要である」33.6%）、ケアマネジャーの 94.3%（「非常に重要である」70.4%、「やや重要である」23.9%）が、重要であると回答しました。

【図2】 認知症予防における早期発見の重要度

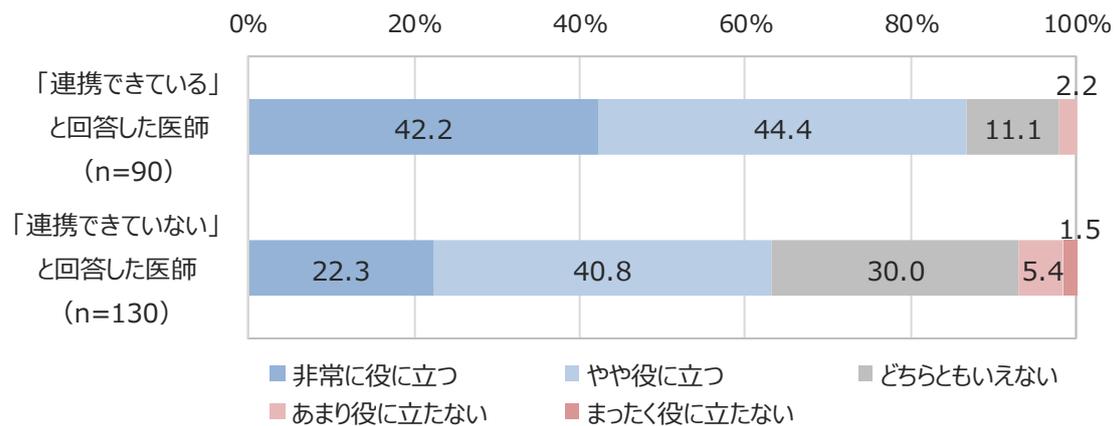




3. ケアマネジャーと連携できている医師の 8 割強が、“ケアマネジャーとの連携は集患に役立つ”と回答。 連携できていない医師の 1.4 倍

“ケアマネジャーとの連携が集患にどの程度役立つか”を医師に尋ね、実際にケアマネジャーと連携できていると回答した医師・連携できていないと回答した医師別に回答を比較しました。集患に役立つと考える割合は、ケアマネジャーと連携できている医師で 86.6%（「非常に役に立つ」42.2%、「やや役に立つ」44.4%）、一方ケアマネジャーと連携できていない医師では 63.1%（「非常に役に立つ」22.3%、「やや役に立つ」40.8%）でした。

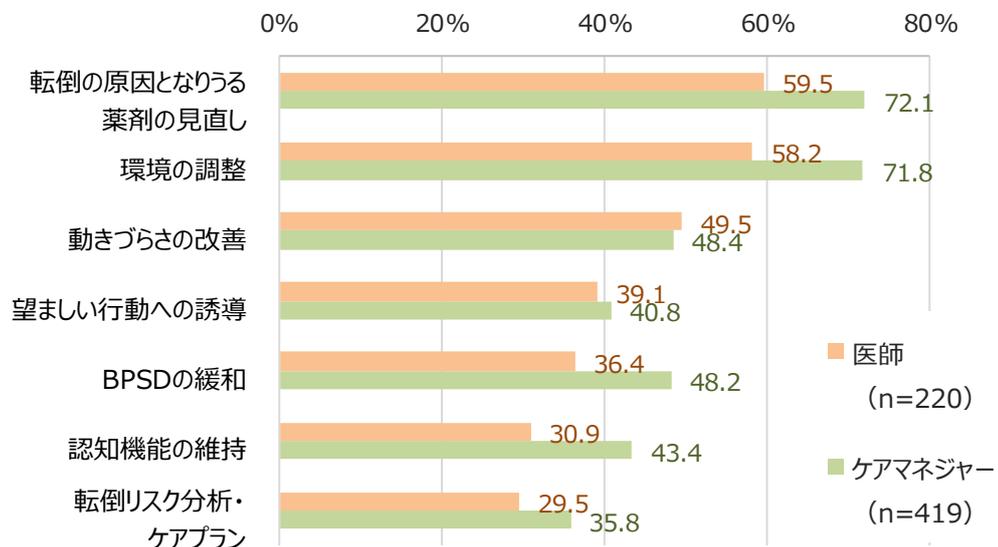
【図3】 医師回答 介護との連携が集患に役立つと思う度合い（医療介護の連携状況別）



4. 認知症患者の“転倒予防”に大切なことは？ 医師・ケアマネジャーともに認識に相違はなく、 「転倒の原因となりうる薬剤の見直し」、「環境の調整」、「動きづらさの改善」が上位

認知症患者の転倒予防に大切なこととして、医師で多かった回答から順に「転倒の原因となりうる薬剤の見直し」59.5%、「環境の調整」58.2%、「動きづらさの改善」49.5%でした。ケアマネジャーも順位は同じで、「転倒の原因となりうる薬剤の見直し」72.1%、「環境の調整」71.8%、「動きづらさの改善」48.4%でした。

【図4】 認知症患者の転倒予防に大切であると考えること（複数回答／上位7）

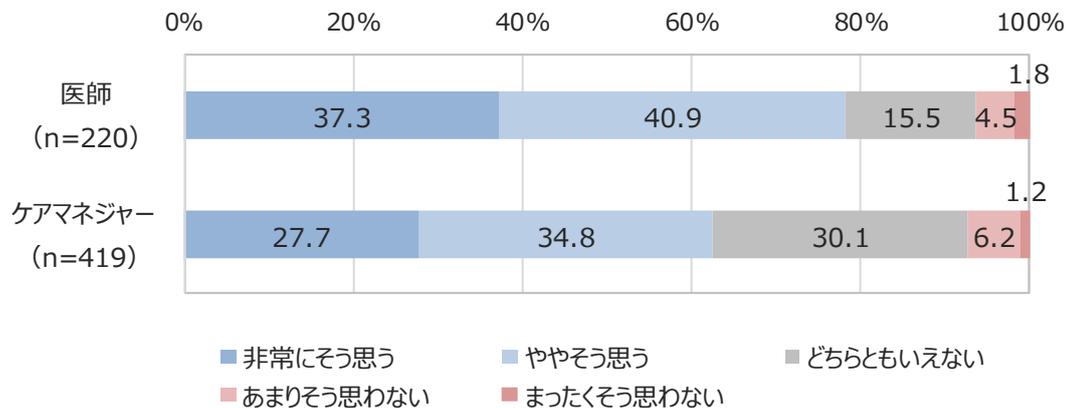


※医師のスコアの大きい順に並び替え

5. “抗認知症薬の積極的な使用”について、医師の 8 割、ケアマネジャーの 6 割が肯定的

今後（もしくは今後も継続して）、抗認知症薬を積極的に使いたいと考えているか、医師とケアマネジャーの回答を比較しました。使用に前向きな割合は、医師で 78.2%（「非常にそう思う」37.3%、「ややそう思う」40.9%）、ケアマネジャーで 62.5%（「非常にそう思う」27.7%、「ややそう思う」34.8%）でした。

【図5】抗認知症薬の積極的な使用に対する考え



今回の調査結果から、医師・ケアマネジャーともに認知症の早期発見が重要であると考えているものの、連携はまだ十分には進んでいないということが分かりました。認知症の早期発見・早期治療のためにも、医療と介護の連携を進めていくことが望まれます。

以上

■ 調査概要

調査名：認知症における意識調査

調査主体：マクロミルケアネットとインターネットインフィニティーの共同調査

調査方法：インターネットリサーチ

調査対象：ケアマネジャー508名/「ケアマネジメント・オンライン」の登録会員

医師（認知症専門医・非専門医）220名/「ケアネット・ドットコム」の登録会員

調査期間：2020年2月27日（木）～2020年3月2日（月）

－ 本件に関するお問い合わせ先 －

株式会社マクロミル コミュニケーションデザイン本部 度会

TEL：03-6716-0707 MAIL：press@macromill.com

URL：<https://www.macromill.com>

— ご利用に関して —

● 注意事項

- ・ 当記事の著作権は、株式会社マクロミルケアネットと株式会社インターネットインフィニティーが保有します。
- ・ 当記事に掲載のデータを引用・転載される際は必ず「マクロミルケアネットとインターネットインフィニティーの共同調べ」と出典を明記してご利用いただくようお願いします。
また、引用・転載される旨を株式会社マクロミル 広報担当（press@macromill.com）までご一報ください。
- ・ 当記事に掲載された内容の一部または全部を改変して引用・転載することは禁止いたします。

※商用利用について

- ・ 自社商品・サービスの広告における使用はご遠慮ください。
また、営業・販売を目的とした資料や制作物への引用・転載をご希望される場合は、事前に必ずご相談ください。
引用されたい調査結果、引用先、引用物の用途を明記のうえ
株式会社マクロミル 広報担当（press@macromill.com）までご連絡をお願い致します。

● 免責事項

- ・ 転載・引用されたことにより、利用者または第三者に損害その他トラブルが発生した場合、
当社は一切その責任を負いません。